

## 整形外科

### A 欧 文

#### A-a

1. M Uetani, R Hashmi, M Ito, T.Okimoto, H. Enomoto, H. Shindo. Subchondral Insufficiency Fracture of the Femoral Head:MRI Findings Correlated With Micro-CT and Histopathology, Journal Computer Assisted Tomography, 27(2): 189-93, 2003 \*
2. T Matsumoto, T Tsurumoto, H Shindo A case report of pachydermoperiostosis associated with arthritis. Modern Rheumatology 13: 371-375, 2003
3. T Matsumoto, T Tsurumoto, H Shindo. Transient osteoporosis of the Talus followed by migration to the tibia. J Rheumatology. 30: 860-862, 2003 \*
4. T Taniguchi, T Matsumoto, H Shindo. Changes of serum levels of osteocalcin, alkaline phosphatase, IGF-I and IGF-binding protein-3 during fracture healing. Injury 34: 477-479, 2003 \*○
5. Iioka T, Furukawa K, Yamaguchi A, Shindo H, Yamashita S, Tsukazaki T. P300/CBP acts as a coactivator to cartilage homeoprotein-1 (Cart1), paired-like homeoprotein, through acetylation of the conserved lysine residue adjacent to the homeodomain. J Bone Miner Res 18: 1419-29, 2003 \*○

### B 邦 文

#### B-a

1. 諸岡 聡、弦本敏行、松本智子、熊谷謙治、鈴木暢彦、村田雅和、進藤裕幸：SAPHO 症候群の 2 例。整形外科と災害外科 52：707-711、2003
2. 久芳昭一、松本智子、弦本敏行、稲富健司郎、進藤裕幸：関節リウマチ患者における腰椎病変の X 線学的変化。整形外科と災害外科 52：703-706、2003
3. 弦本敏行、松本智子、進藤裕幸、末廣昌嗣、田口 厚：THR 施行 RA 患者の長期追跡調査。九州リウマチ 22：35-39、2003
4. 光武聖史、松本智子、弦本敏行、進藤裕幸：慢性関節リウマチ患者における人工関節置換術前後の骨塩量評価。整形外科と災害外科 52：162-165、2003
5. 馬場秀夫、小西宏昭、尾崎 誠：環軸椎亜脱臼に対する手術方法の比較検討。西日本脊椎研究会誌 29：185-190、2003
6. 馬場秀夫、小西宏昭、原真一郎：腰部化膿性脊椎炎に対する経皮的椎間板搔爬術の有用性。西日本脊椎研究会誌 29：59-63、2003
7. 岡野邦彦、榎本 寛、原田真一、伊藤 茂、土井口祐一、進藤裕幸：進行期変形性股関節症に対する寛骨臼回転骨切り術の治療成績—術前の骨頭変形の程度と治療成績との関連—。Hip Joint 29: 102-108, 2003.
8. 岡野邦彦、榎本寛、原田真一、伊藤茂、土井口祐一、進藤裕幸：白蓋縁切除術を併用した寛骨臼回転骨切り術の治療成績。Hip Joint 29: 149-153, 2003.
9. 岡野邦彦、榎本 寛、原田真一、伊藤 茂、土井口祐一、進藤裕幸、青柳 潔：変形性股関節症における身体各部位での骨量値の検討—橈骨、腰椎、踵骨骨量値の比較—。Hip Joint 29: 82-84, 2003.
10. 岡野邦彦、榎本 寛、原田真一、伊藤 茂、土井口祐一、進藤裕幸：近位固定型セメントレスシステムを使用した人工股関節再置換術の成績。日本人工関節学会誌 2003；33：55-56。
11. 川原奈津美、岡野邦彦、千葉 恒、榎本 寛、原田真一、伊藤 茂、土井口祐一、進藤裕幸：変形性股関節症における立位 X 線像と病期の関係—立位 X 線撮影の有用性。整形外科と災害外科 52：674-677、2003
12. 千葉 恒、岡野邦彦、榎本 寛、原田真一、伊藤 茂、土井口祐一、川原奈津美、進藤裕幸：臥位と立位における骨盤傾斜角の比較。整形外科と災害外科 52：669-673、2003
13. 衛藤正雄：ラグビー日本 A 代表ニュージーランド遠征帯同ドクター。九州・山口スポーツ医・科学研究会誌：18-20、2003
14. 弦本敏行、米倉暁彦、西村誠介、進藤裕幸：骨関節 MRSA 感染症例における菌交代現象の検討日本骨・関節感染症研究会雑誌 17：1-5、2003
15. 弦本敏行、米倉暁彦、進藤裕幸：当院整形外科領域における緑膿菌検出例の検討。日本骨・関節感染症研究会雑誌 16：66-69、2003
16. 原田真一、榎本 寛、岡野邦彦、伊藤 茂、土井口祐一、進藤裕幸：変形性股関節症に対する Osteonics hip system の治療成績と X 線学的変化。マイクロストラクチャー型、アークデポジット型、セキュアフレックス型の比較。Hip Joint 29: 411-414, 2003
17. 高橋亮子、山口義彦、榎本 寛、魚谷茂雄、桑原宏永、藤田成裕、喜多篤志、大島勝也、酒巻宏行、山崎浩則、江

- 口勝美：運動療法中に疲労骨折をきたした肥満2型糖尿病患者の1例。糖尿病 46：317-323、2003
18. 富田逸郎、田村隆治、中尾洋子、岩永圭介、佐藤秀代、佐藤聡、瀬戸牧子、辻畑光宏、榎本 寛、衛藤正雄：左上殿動脈末梢・左内陰部動脈から左臀部にあいついで出血した神経線維腫症1型。臨床神経学 42：982、2003
  19. 田口憲士、原田真一、榎本 寛、岡野邦彦、信田益宏、赤瀬啓介、千葉 恒、進藤裕幸：Osteonics hip system の臨床成績とX線学的変化。整形外科と災害外科 52：43-47、2003
  20. 福田雄一、柳原克紀、中村茂樹、大津喜子、金子幸弘、宮崎義継、平瀧洋一、朝野和典、田代隆良、進藤裕幸、河野 茂：Linezolid が有効であった整形外科領域 MRSA 感染症の2例。感染症学雑誌 77：622-626、2003。
  21. 小関弘展、衛藤正雄、稲富健司郎、櫛田 学、中原信一、鈴木暢彦、原田真一、進藤裕幸：ラグビー中に受傷した hangman 骨折の1例。整形外科と災害外科 52：938-939、2003
  22. 村田雅和、熊谷謙治、鈴木暢彦、諸岡 聡、進藤裕幸、田中克己：上腕骨近位骨肉腫に対し Scapular flap を用いて再建した1例。整形外科と災害外科 52：738-741、2003
  23. 中原信一、衛藤正雄、赤瀬啓介、山口貴之、進藤裕幸：化膿性胸鎖関節炎の1例。整形外科と災害外科 52：695-698、2003。
  24. 小関弘展、衛藤正雄、稲富健司郎、櫛田 学、中原信一、進藤裕幸：ラグビー競技で受傷した Hangman 骨折の1例。九州・山口スポーツ医・科学会誌 15：36-41、2003
  25. 伊達武利、熊谷謙治、進藤裕幸、平野 徹、今村宏太郎：上腕骨近位部に発生した Parosteal lipoma と思われた1例。整形外科と災害外科、52：181-184、2003
  26. 赤瀬啓介、衛藤正雄、朝長 匡、高原一洋、櫛田 学、稲富健司郎、山口貴之、和氣 聡、千葉 恒、進藤裕幸：腱板断裂修復時の張力測定。整形外科と災害外科 52：110-113、2003
  27. 山口貴之、衛藤正雄、朝長 匡、高原一洋、櫛田 学、稲富健司郎、赤瀬啓介、和氣 聡、進藤裕幸：SLAP lesion における MRI Arthrography の有用性。整形外科と災害外科 52：97-100、2003
  28. 和氣 聡、衛藤正雄、朝長 匡、高原一洋、櫛田 学、稲富健司郎、赤瀬啓介、山口貴之、進藤裕幸：腰椎化膿性椎間関節炎の1例。整形外科と災害外科 52：73-76、2003

**B-b**

1. 進藤裕幸：血液透析と骨・関節障害の最近の知見。introduction。関節外科 22：1378-9、2003
2. 松本智子：長期血液透析の現況と問題点—整形外科的見地から—。関節外科 22：25-27、2003
3. 衛藤正雄：肩関節随意性脱臼に対する大胸筋移行術。新 OS NOW 20: 60-64, 2003
4. 西口雅彦、進藤裕幸、榎本 寛：【肺血栓塞栓症をめぐる話題】術後合併症としての肺血栓塞栓症（解説／特集）。THE LUNG-perspectives 11: 173-176, 2003
5. 弦本敏行、進藤裕幸：【疲労骨折の診断と治療】疲労骨折の類似疾患。骨髄炎。臨床スポーツ医学 20：236-244、2003
6. 衛藤正雄：肩のスポーツ障害。長崎市医師会報 37：38-41、2003
7. 稲富健司郎、進藤裕幸：腰痛 外来診療の全て。腰痛の治療。腰痛の薬物療法。臨牀と研究 80：434-438、2003

**原著論文数一覧**

	A-a	A-b	A-c	A-d	合計	SCI	B-a	B-b	B-c	B-d	合計	総計
2003	5	0	0	0	5	4	28	7	0	0	35	40

**学会発表数一覧**

	A-a	A-b		合計	B-a	B-b		合計	総計
		シンポジウム	学会			シンポジウム	学会		
2003	1	0	2	3	5	0	51	56	59

**原著論文総数に係る教官生産係数一覧**

	欧文論文総数 (論文総数)	教官生産係数 (欧文論文)	SCI掲載論文 (欧文論文総数)	教官生産係数 (SCI掲載論文)
2003	0.125	0.556	0.8	0.444

### Impact factor 値一覧

	Impact factor	1 教官当たり Impact factor	論文当たり Impact factor
2003	10.728	1.192	2.682